



乳用後継牛生産とET和牛生産の両立による酪農収益力の向上 ～性選別精液と和牛受精卵移植の良いとこ取り～

広島県農林水産局畜産課 酪肉振興グループ 日高健雅氏

1 はじめに

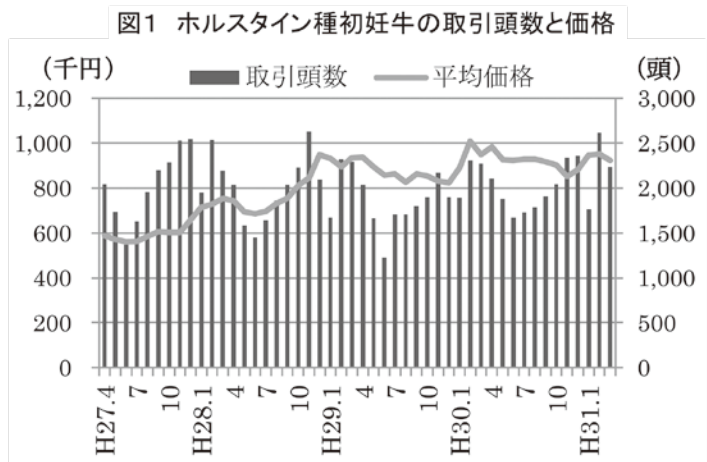
広島県では、平成 27～28 年度において「酪肉複合推進モデル事業」を実施し、①酪農経営における性選別精液の利用促進による効率的な後継牛確保、②確保した後継牛等を活用した和牛受精卵移植の推進による、酪農経営基盤の強化及び和牛生産の拡大を図りました。

そこで、4月～7月号において、取組んだ背景や取組状況について紹介していききたいと思います。

2 ホルスタイン種初妊牛の価格

北海道のホクレン家畜市場では、ホルスタイン種(以下「ホル」という。)初妊牛の価格は、近年上昇傾向が続いています。平成 27 年 4 月時点で、平均 58.7 千円だった価格が、平成 28 年 10 月に 800 千円を突破すると、そのまま高値で推移し、平成 31 年 3 月時点では 92.3 千円となっています。

そのため、北海道から初妊牛を導入している酪農経営には、非常に大きな負担増となり、経営を圧迫する要因の一つとなっています。

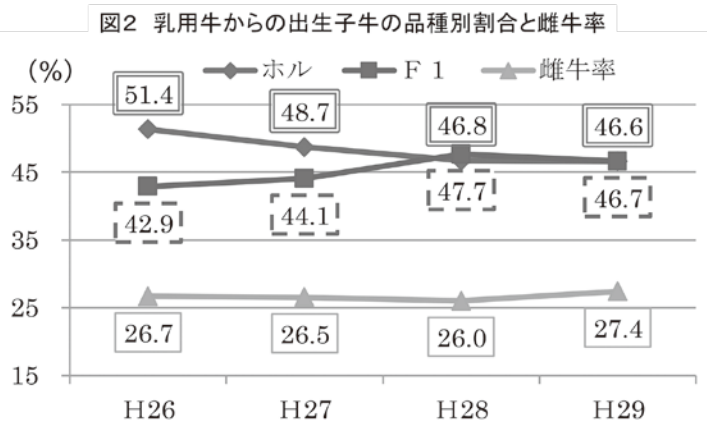


3 県内のホル後継牛の生産状況

広島県における乳用牛から出生した子牛の状況を図 2 に示します。

近年、乳用牛から出生した子牛のうち、ホルの割合は年々減少しており、その出生率は、平成 26 年度 51.4% から平成 29 年度 46.6% と約 5 ポイント減少しています。反対に、F1 子牛の出生率は、平成 26 年度 42.9% から平成 29 年度 46.7% と約 4 ポイント上昇しており、ホル子牛の出生率を超えています。

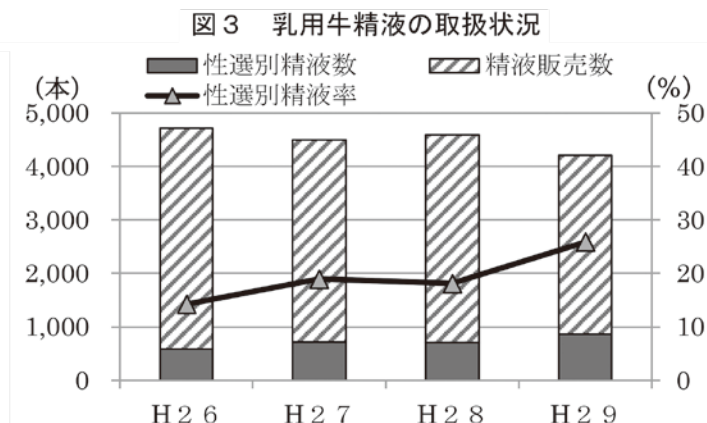
一方で、雌のホル子牛の生産率(雌牛率)は、平成 26 年度 26.7% から平成 29 年度 27.4% と若干上昇に転じています。



4 性選別精液の利用状況

ホル子牛の出生率が減少しているにも関わらず、雌牛率が上昇に転じている要因を考えてみましょう。広島県酪農業協同組合(以下「広酪」という。)で取扱のある乳用牛精液の販売内訳では、販売数は減少していますが、性選別精液は増加傾向となっています。性選別精液の活用が、雌牛率を上昇させていると考えられます。

一方で、広酪では、第 8 次中期 3 年計画において、ホル雌子牛の単年度育成保留率を 30% 以上に上昇させる計画を立てられており、この計画を達成するには、性選別精液の利用数は不十分であり、今後さらに利用促進することが必要であると考えられます。



すでに、性選別精液を十分に活用されている経営体もあると思いますが、ここでは、改めて性選別精液の活用による後継牛生産方法等を提案していききたいと思います。次回は、性選別精液を高受胎率で活用する上で有効な方法(同期化、種付け器具、飼養管理)と、その方法で得られた結果について紹介します。